

令和3年度 島根県立益田養護学校 分掌・学部重点目標及び年度末評価

- ◆今年度の重点
 (1)「生きる力」を育成する教育課程の編成 (2)教員の専門性の向上による授業改善 (3)地域との連携・協働の推進

- ◆今年度の具体的な取組
 ①安心安全な環境整備 ②自主的学習態度の育成 ③基本的生活習慣の確立 ④キャリア教育の充実 ⑤保護者・地域に信頼される学校

評価基準に沿っての達成状況

A:達成9割以上 B:7割以上9割未満 C:5割以上7割未満 D:5割未満 E:分からない

分掌名	重点目標（分掌・学部）	評価項目	○評価方法及び★基準	評価点	学校関係者評価
総務S	○保護者と連携しながらPTA活動を進め、活性化を図る。	・保護者のニーズを把握したりPTA役員会で話し合ったりして意見をまとめ、活動内容や方法を工夫してPTA活動を実施する。	○アンケートや地区別顔合わせ会等で保護者のニーズを把握、PTA役員会で日程や内容の相談・決定。事後アンケートを実施。★実績、肯定的意見8割	A	A
	【結果と課題】 ・地区別会での意見や事前アンケート結果を受けて役員会で話し合い、保護者のニーズにできるだけ応えるかたちで研修会や施設見学を計画・実施できた。 ・PTA行事の開催については中止したものはあったが、役員会で意見をいただき、開催の仕方や内容などを相談しながら実施できた。 ・役員会では、参加できなかった方への情報提供や参加しやすい日程、職場見学後に保護者同士の意見交換ができるとい、等の意見をいただいている。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・アンケート等でできるだけ保護者のニーズを把握し、応えられるように相談しながら計画・実施したい。 ・参加しやすい日程については、12月に高3以外の保護者にアンケートを実施し結果を参考に。今年度のよう、授業公開日に研修会を開くことも参加のしやすさ、参加者増につなげられる。 ・職場見学後の振り返りや意見交換について、短時間でも実現できるように検討していきたい。		
教務S	○教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくために、キャリア教育の視点を踏まえた教科等横断的な指導内容の展開(カリキュラム・デザイン)を推進する	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	○学習計画表(単元配列表)作成による指導内容の見える化を行う。(様式は教務作成、打ち込みは各担当) ★各学級で計画表を基に各教科等のつながりを矢印で記載しながら確認、検討し、改善を行う。この取組の機会(夏季休業中)の設定と実施の可否。計画表の提出。	B	B 専門的な面は分からないが新学習指導要領の趣旨を受けての取組がなされていることは良いことだ。
	【結果と課題】 ・夏季休業中の夏期セミナーにおいて学習単元配列表を基にした教科等横断的な視点をもつ演習(学習同士のつながりを見つける)を行い、また続けて具体的な学習展開を考え、内容をキャリア教育の基礎的・汎用的能力の4つの力とのつながりを見る演習に取り組んだ。 このことで研修後のアンケートからも教科同士のつながりの意識がもてたり、キャリア教育の視点について改めて気づいたりすることにつながった。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・教科等横断的な視点での教科同士のつながりをもつきっかけにはなかったが、今後は資質能力でつなぐ視点が大切になってくる。新しい個別の指導計画や年間指導計画ではその視点を踏まえて作成することになり、次年度は各教科の資質能力を横断的に照らし合わせて計画を作成することになるので教務としてサポートしていく。		
子ども支援S	(子ども指導) ○児童生徒の主体性や意欲を引き出すために、安心して活動できるような支援を講じるとともに、安全に活動できるよう、環境を整備する。	運動会やますようまつり、赤白活動など、児童生徒が主体となって意欲的に取り組めるような行事や活動を企画し、実施する。	○運動会、ますようまつり、入学式準備、卒業式準備、児童生徒総会(2回)、赤白活動(4回)、あいさつの日(11回)、目安箱の回収・集約(10回) ★実施率8割以上	A	A
	【結果と課題】 ・昨年同様、感染症対策を講じながら行事を実施することができた。実施にあたっては執行部が中心となってアイデアを出し合い、今までやったことのないことにチャレンジしたり、自分たちから全校に発信したりするなど、児童生徒主体の行事にしていこうという意欲を引き出すことができた。目安箱についても計画どおりに集約し、セクション会や学部会などで検討することができたが、教育的意義のある意見は実現できるように、前向きに検討していけるようになるとうい。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・児童生徒が今よりもっと学校づくりに参画できるようにする。具体的には、子ども達の意見を出しやすくするために目安箱の様式や仕組みを整備したり、出た意見を子ども達自身でしっかり検討する時間をもつためにHR等を活用したりする。		
	(健康教育) ○児童生徒の主体性や意欲を引き出すために、安心して活動できるような支援を講じるとともに、安全に活動できるよう、環境を整備する。	学校生活を安全に送ることができるよう、安全点検や環境整備、シミュレーションなどの予防的な取り組みを定期的に行い、それにより教職員や児童生徒が安心感を得られるようにする。	・各種シミュレーションの実施とマニュアルの改善 ★実施状況 ・校内設備の点検、プールの安全管理 ★実施回数 ・ヒヤリハットの集約 ★学部等での分析・ケース会回数 ・医療的ケア体制の整備 ★委員会実施回数	A	A ヒヤリハットは大事である。近隣施設での建設工事でも本格的に始まるので農場へ行く際の県道の横断が心配である。安全を確保するため、工事関係者や駐在所にも声を上げていくとうい。
	【結果と課題】 ・予定した各種シミュレーション、それに伴うマニュアルの改善、安全点検、医療的ケア実施委員会の開催は計画どおり実施できた。ヒヤリハットについてはS会で事例毎の分析を行って各学部会へ周知したり、必要な場合は全体周知を行った。基準に基づいたケース会を早期に3件について行い、防止策等を学部・学級へ提案したりした。物的環境要因だけではないケースも多く児童、生徒理解が必要な場合があり、改善策の検討方法に課題がある。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・ヒヤリハット事例の改善策の検討について、まず該当児童生徒特有のケースかどうかを分析・判断し、そのような場合には児童・生徒理解も検討の視点に入れる手順でケース会を行うこととする。その際には該当学部等と連携することも考慮する。		
実践支援S	○校内研究を推進するとともに、研修会の充実を図ったり、専門家の訪問指導を設定したりすることで、教職員の専門性の向上に努める。	・グループで校内研究を推進し、校内研修の充実のために夏期セミナーを設定する。また、児童生徒の具体的な指導、支援について学ぶことができるように専門家による訪問指導を設定する。	○校内研修会の実施 ★月1回程度 ○夏季セミナーの実施 ★7/26～7/30 ○専門家訪問指導の実施 ★年10回程度	B	B
	【結果と課題】 ・全校の全校研(4月)と公開研(7月)、授業公開週間(11月)、グループで校内研(月1回程度)を実施した。各分掌等からの希望を調整し、午前1講座午後1講座を越えないように夏期セミナーを実施した。ウインド、川間先生、藤原先生、濱崎先生の訪問指導を実施した(計11回)。 ●12月の選択研修の愛着研修は当初予定していなかったため、30名の参加となった(夏の研修と合わせると47名)。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・次年度も教職員の専門性向上のために、校内研究を推進、研修会の充実、専門家訪問指導の実施ができるようにする。 ・今年度のアンケートも活用し、内容を精選しながら、教職員のニーズに合った必要性の高い研修を計画する。		
進路S	○児童生徒や保護者が将来の生活に見通しをもつことができるように、支援機関と連携したり、必要な情報を提供したりする。	・支援機関の話を聞く機会を設定したり、懇談時に進路にかかわる情報を提供したりする。	○学部懇談を利用して支援機関の話を聞く機会の設定 ★年間1回 ○懇談週間に進路情報コーナーを設け、情報提供を行う。★年間2回	B	B 進路は、保護者にとっても切実な問題。進路や福祉制度にかかる情報は小学部など小さい頃から提供していけると保護者としてありがたい。
	【結果と課題】 ・12月の授業公開日に益田市の障がい担当者から保護者、教員対象に話をする機会を設定し、概ね参考になったという感想を得ることができた。 ・9月の懇談週間や12月の授業公開日で、進路情報コーナーを設けたが、設置場所や周知の仕方に工夫が必要だった。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・各学部の保護者が必要としている情報を提供できるように、学部と進路が情報共有し、連携をはかっていく。 ・進路情報コーナーで取り扱っている内容を教員全体と、保護者に周知する。設置場所についても学部と連携しながら工夫していく。		
教育相談S	○特別支援教育に関する地域のセンター的役割を果たし、益田地域の特別支援教育の充実を図る。	・ますようDE学習会や夏期セミナー、冬期セミナーを開催し、特別支援教育に関わる教職員の資質向上を目指す研修や相談・情報提供を行う。	○学習会、セミナーの開催 ★年9回 ○アンケートの実施 ★参加者の肯定的評価9割	B	B
	【結果と課題】 ・学習会(夏期・冬期セミナーを兼ねる)はコロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、3回中止となった(5回実施、1回未実施2月に予定)。冬期セミナーは事前にオンラインも検討していたが、講師の希望もあるので難しかった。 ・アンケートの結果は、肯定的な意見が93%と9割以上であった。校務支援や「相談だより」を通して、日時や研修内容について校内に周知を図ることができた。	・今年度のキャリア教育の重点目標(みつめる力)を核にして各教科等の指導内容を学習計画表(単元配列表)に整理し、関連を図る。	【次年度に向けた改善策】 ・夏期セミナー、冬期セミナーについては、今後も講師の方とオンラインも含めて実施の方法を検討していきたい。 ・校務支援や相談だよりで校内への周知を図ってきた。今後も継続していくとともに、講師の方からの資料など、いつでも閲覧できるようにしていきたい。 ※WISC-IVの検査については、教育相談に相談してください。		

分掌名	重点目標（分掌・学部）	評価項目	○評価方法及び★基準	評価点	学校関係者評価
情報管理 S	○学校生活や学校教育の情報を発信し、保護者・地域に信頼される学校づくりに務める	・学校生活や学校教育の様子を保護者や地域の方々に知ってもらえるように情報を発信する。	○HPの更新 ★年35回 ○便りの発行 ★年7回	A	A 一人一台端末は、保護者がそれぞれで準備するのか。教育上必要であるならば公費で準備すべきである。
	【結果と課題】 ・学校行事や学部行事の様子などを中心にHPの更新を現在44回、情報セキュリティや図書についての便りの発行を現在5回（3月中に2回発行予定）行った。コロナウイルスの影響があり運動会やますようまつりなどの様子を知ってもらうため映像を配信した。 ・iPadやタブレット端末を使用する機会が増えるにつれ、使い方や情報モラルなどを家庭と情報共有していく必要がある。また、授業の中でiPad等を活用できる場面がまだまだあると考えられる。	【次年度に向けた改善策】 ・情報セキュリティ通信やHPなどを通じて、情報発信をさらに進めていきたい。（ファイル添付ができる新メールシステムも検討する。） ・学部ごとの利活用事例のとりまとめ、情報共有をしていきたい。			
寄宿舎	○生徒一人一人の実態を把握した目標設定を行い、家庭と連携した支援に努める。	・家庭と連携をとりながら、生徒一人一人が自分の生活を振り返ったり、自分のことを理解できるような学習会を設ける。	○年間をとおして計画的に学習会を実施する。 ★各セクション学期に1回 ○保護者会や舎だよりで保護者に発信する。 ★保護者会年2回、舎だより年10回	B	A 自分たちで自分たちの生活をよくしていこうという取組はとても良い。共同生活上のルールなどを生徒が意識し続けることには難しさがあると思う。生活を支えることは大変。繰り返し取り組むことが必要である。
	【結果と課題】 ・食育、スマホのルール、性教育、防災等年間をとおして学習会を行うことができた。 ・舎だよりについては学習会の様子を知らせ、保護者会ではスライドで生活の様子を見ていただいて理解を深めた。 ●学習会で自分のことを振り返ることはできるが、その後の行動や意識に結びつけることが難しかった。	【次年度に向けた改善策】 ・自分達の生活を振り返り、自分達で寄宿舎の生活を考えていけるような活動も取り入れながら取り組んでいく。 ・良いところをとりあげ、伸ばしながら引き続き取り組んでいく。			
小学部	○児童が主体的に学習に取り組むことができる授業作りに努める。	・児童の主体的な姿を引き出すことができるよう、考える・真似る・工夫する・気づくといった児童の探究的な学習の積み重ねを大切にし、児童の実態に沿った学習内容の設定や支援を工夫する。	○計画的に探求的な学習内容を設定し、授業改善に取り組む。また、その実践を学級通信等で、学部教員や保護者と共有する。 ★学期に2回程度	B	B PDCAの前の「R」について、「リサーチ」が入るのは特別支援学校ならではの。保護者が安心して通わせられるためにも、連絡帳等の方法で毎日の様子伝えていくことは大事である。
	【結果と課題】 ・目標に設定したことで、教員間で児童の探究的な姿について共通理解を図ることができた。 ・学習グループごとに児童の探究的な姿を意識した授業改善（RPDCAサイクルを回す）を行うことができた。 ・学級通信を活用して、学期に2回程度、保護者に児童の探究的な姿を発信することができた。また、学部内でも学級通信を回覧したことで、学習の様子を共有することができた。 ・計画的な授業設定が不十分だった。年計などの立案時にも、意識していく必要があった。	【次年度に向けた改善策】 ・授業実践において、児童の主体的な姿を引き出すために探究的な姿を意識した授業作りができるようになってきた。次年度も継続していきたい。 ・児童の主体的な姿を引き出すために、ゆとりをもった中期的、短期的な計画を立て、児童の可能性を信じて、任せることができる場面を設定して行く。			
中学部	○家庭や地域と連携し、生徒同士の学び合いにつながる授業実践に努める。	・地域資源（ひと・もの・こと）を積極的に活用した学習を実施する。	○地域資源を活用した学習を行事や教科等で実施する。 ★年5回 ○地域資源を活用した学習について「学び合い」の視点で振り返りを行う。 ★肯定的意見8割	A	A 市特研の小中卒業進級おめでとう会は、益田養護学校を会場にして実施できると市内小中学校の保護者に対するの理解啓発につながると思う。
	【結果と課題】 ・学級生単、音楽等で地域資源を活用した学習を、1学期3回、2学期9回実施した。 ・地域の方の技術や知識によって、本校では準備できない魅力ある教材で学習を進めることができ、生徒にとっても教員にとっても学びのある学習になった。 ・人とのかわりが苦手な生徒も、活動を通して地域の方や友だちとかかわる姿がみられた。 ・地域の方には、学校や生徒について知っていただく機会となった。また、演奏披露の場になったり、地域の祭りに協力したりするなど、微力ながら地域に役立てる機会になった。 ●つろうて事業を活用する場合、他学部と期日等の調整が必要だった。	【次年度に向けた改善策】 ・今年度の経験をふまえて、次年度も地域を活用した学習を計画していきたい。 ・つろうて事業を活用する場合、地域の方の負担にならないよう期日などの調整を図る。 ・かわりがより深まるよう、学習のすすめ方や支援方法を工夫する。			
高等部	○生徒自身が地域と関わり、主体的・意欲的に学習に取り組む学習環境の設定に努める。	・地域と関わりのある学習を設定し、その中で学習したことを発表する機会を工夫する。	○各学年・作業班は年に1回以上地域と関わる学習を設定し、発表の機会を設け、実績を掲示物等で視覚化する。 ★実績	B	B ・地域とのつながりは、やはり人である。地域としてもいろいろニーズに応じて人材を提供できる組織づくりができると良い。 ・余暇の充実に向けた取組があった。卒業生がどのような生活を送っているのか把握できると良い。コロナ禍で余暇サークルが無くなってきている。育成会等の当事者の会に早めに入っておくことは、卒後の余暇の充実にとって有効である。
	【結果と課題】 ・各学年、作業班が、年に1回以上地域と関わる学習を設定、実施し、掲示物、発表会等で、概ねその成果を発表する機会を設けることができた。 ・高等部が地域とかかわりながら学んだ活動は、廊下に掲示し、達成感や意欲につながるよう視覚化した。	【次年度に向けた改善策】 ・各作業班で、地域と関わる学習を設定し実施することはできたが、それを発表する場を設けることができなかった。来年度は、地域と関わる学習について、各作業班が年度末にまとめ、発表の場を設定していきたい。			
事務部	○設備、備品の面から学習環境を整備、改善する。	・感染症対策、熱中症対策のための備品の設置 ・劣化した設備の修繕 ・授業に必要な備品の充実	○寄宿舎和室の洋室化 ★10月まで ○設備修繕 ★安全点検指摘への対応 ○スクールバス2台運用 ★5月から	A	A 設備の老朽化による事故事例が全国的に発生している。樹木の倒壊も含め、事故につながらないように日頃からの点検が大事である。
	【結果と課題】 ・感染症対策予算を活用して、寄宿舎の各種改修、体育用具の購入など、多くの設備備品を整備した。エアコンやボイラーの交換など懸念だった劣化設備の取替も実施できた。一方で、感染症対策や大型修繕の対象にならない備品の購入や修繕は、予算が得られず先送りしたものもあった。	【次年度に向けた改善策】 ・先送りした備品や修繕は、来年度予算の中で優先順位を付けて購入、実施する。大雨の際に屋内運動場棟で生じた雨漏りに対しては、屋上に上がるためのハシゴを設置し、随時、屋根の点検や屋上の排水口の掃除ができるようにする。			
人権・同和教育	○人権教育に関する専門性の向上を図る。	・教職員へのアンケート結果を元に、本校における人権課題を取り上げ、人権意識を高めるための研修会を実施する。	○校内研修会の実施 ★年2回以上	B	B 特別支援学校の教職員は、元々人権意識が高いと思う。引き続き高い意識であたれと良い。
	【結果と課題】 ・教職員に対して、「人権意識を高めるアンケート」を実施し、アンケートの結果をもとに、「人権意識を高めるために意識したいこと」をまとめ、職員室内に掲示した。 ・校内「ミニ研修会」を夏期休業中に2回実施した。 ・校内教職員研修会として、西石地区人権・同和教育研究会に参加できるようにした。	【次年度に向けた改善策】 ・アンケートを元に掲示物を作成することはできたが、もっと教職員に周知すると良かった。また「ミニ研修会」の内容を、教職員アンケートの結果を反映した内容にしていく。			



